

テ培育スル者ハ子ノ蒂ツグ巨クシテ、漢産ノ細蒂ナルニ異ナリ、最トモ辨別シ易シ、
〔採藥錄五〕吳茱萸

今處々栽ル者即漢種也、秋子ノ熟タルヲ取り、其儘陰乾スベシ、舶來ノ者ニ比スルニ、稍小ニシテ
味少シ、小異アルノミ、

〔紀伊續風土記 物産五〕吳茱萸ハツア、フヲ本草、和本名ニ加良波之加美、和名抄加波々之加美、新撰字鏡 牟婁

郡山中所々に産す、又漢種朝鮮種等人家稀に栽う、

食茱萸オホタラ郡本草、和本名於保多良、牟婁 牟婁郡三前郷大島に産す

〔本草和名十三〕食茱萸崔禹云、功能一名藪出馬和名於保多良、乃美、

〔倭名類聚抄二十〕食茱萸 馬琬食經云、食茱萸、崔禹云、云々、又云、一名藪、出馬琬、是可證馬氏食經載食

茱萸也。○中 按藪是吳茱萸之別名、見本草經、輔仁所引、恐誤

〔重修本草綱目啓蒙二十二〕食茱萸 〇ホダラ和名 カラスノサンシヤウ フトダマ 紀州 ヤ

マホウ 勢州 〇ホザンシヤウ 大慈山 クマザンシヤウ 伯州

山谷或ハ深林中ニアリ、木ノ高サ二三丈、枝條繁茂ス、木ニ尖刺多クシテ、タラ、キ 似タリ、春新葉ヲ

生ズ、山胡桃クル葉ニ似テ、狹長鋸齒アリテ刺多シ、凡ソ一葉ニ三十餘ノ小葉排生ス、夏枝梢ニ花ヲ開

ク、數百簇リテ崖椒イササンシヤウノ花ノ如シ、實モ亦相似タリ、内ニ圓子アリ、サンセウ 椒目ノ如シ、本邦ニテハ食用セズ、

烏鴉集リ食フ、故ニカラスノサンシヤウト呼ブ、一種花アリテ實ナキ者アリ、是ヲハナブシト呼

ブ、枝ニ刺ナク葉形モ微ク異ニシテ、鋸齒細ナリ、

〔本草一家言三〕吳茱萸 食茱萸 山茱萸、雖名同物各異也、和邦訓茱萸爲久美、故不識者誤解三種

以久美之屬非也、予分析之、山茱萸宜訓爲久美、其它吳食二茱萸皆椒屬也、殊非久美屬也、吳茱萸一

種也、

食茱萸